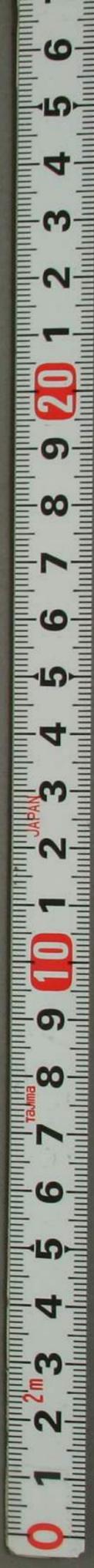


裨史家十傳  
祿道軒主人膳寫

手鑑考

特別  
又5  
5996







七日致五石新病裏通リ淨覺寺大塚町 花下本堂前  
法瑞寂靜院廓舎増水 六世戒の並にあり

古今文 補綴子書曰 聖帝の親由坐行なり

通称山本藤十郎大倉流狂言師之寛政五癸丑年病没

喜三二 朱書 (詩帝富) 補綴持家集 (死の身の頼りたる心もあきより病とあはるべきあり)

秋田庄の士通称平沢平格明誠堂と稱え 戲喜三二又萬山人狂名平柄の密持洲溜月

吟狂詩の長藝又天壽と云劇後一平何と名つくと此三二の名有米亭の讓る文化十癸酉

年五月廿日没行年七十九深川淨心寺地中一葉院 花下

萬原

姓中原名良高字 高直臣号理林初称森島甫舟桂川甫周法眼の舎弟より平賀塚内の門人

天羅萬原又二代目風来山天竺老人の号を狂名竹枝の友軽と云ふ

唐来三和 墨書 (辞せりの母の地水吹風と云をりて五輪のこり引いり)

加藤公伊豆亭と稱え和泉屋深藏と稱え和開 花下 致年不知深川淨心寺の墓ありと

通(天) 教補 (西本巻曰 坊山所居也)

市場名各寧一字多橋字似蒲之俗称を小平二と云文化九壬申年八月廿七日没行年七十四

浅草祝言寺に在り 法名覺法空心

四方山人 墨書 (辞せ時身ふまつるあり初松魚春と夏との入相の詩) 朱(又巴人亭) (蜀前傳自伝名)

名高字子規南畝と稱し又蜀山杏花園石楠斎遠擲山人通称太田七九工門初日

文政六癸未年四月廿日没行七十五白山本念寺に在り 法瑞 杏花園心道日休居士

唐衣橋州

名恭後字温之後謙之改正醉竹庵と稱え通称小島源三郎と云田安家の末十人之

初の内山椿軒と就し講を賦と号し和二世 致年七月十八日没 寛保三癸亥年 赤坂一ツ本浄土寺

に在り 法瑞 心眼院 尺卷得軍居士

朱(東) 補三冊 (補綴持家集) 右京江が辞せとのみ思ひ居たりて過目一本を得て其の終筆の辞世と云るなり記也

名也本貫初名景基字道甫准南堂と稱し山崎御之助御先牛子力く元文二戊午年十月廿四

の中より貞坐したることをい

日下生也實政十一年十二月十二日没九十九山久保町青原禪寺火

法号 淨光院恭安道父居士

平秩事作朱補 復名在後好立和名應之

敬即補 東作所作水行也全五冊半紙本根了し竹十形同し文伴モ似り  
母ま矢口渡り作りし地理付す即言の風まのりし程矢口渡之りし書きし

名嘉穂錦東家山人通称栢生屋全右衛門商家之實政元年七月七日没市ヶ谷マシ  
谷寺度寺了

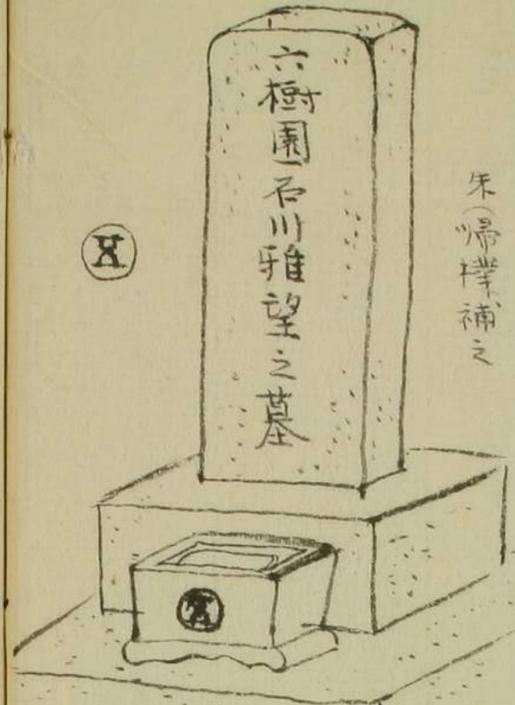
六樹園

敬即補 後言六樹園惡口アリ所居北里十二町三傳ノ錦裏ノ剽竊ナリト評者シレ後ニ樹園山人  
錯後言ナキナ年解ニ

通称石川五郎兵衛狂名宿屋飯盛小傳馬所旅舎糠屋七兵衛重名石川豊信男之

朱(婦)樸補之

墓誌



君諱雅望字子相姓石川氏號六樹園又號  
五老有名城術江戸人君天資聰敏才傑優  
麗學莫所不究規尤覃思和歌格調俊邁詞  
彩聲爛一時專門名家皆出於其下風四方贊  
七業者不可勝枚海內推之為一在宗盟正其身

所著之書數十種上梓布十卷如原注解瀟雅言集覽所尤致思也且以觀其治軍博覽之  
學筆鋒超倫文美文政庚寅三月二十四日罹病而卒享年七十八矣於淺草正覺寺子  
院塔相院法益曰六樹院是堂卷五左居士京師縉紳之家嘗贊君之著書感嘆不措按  
以宗匠之稱叙之怡眼沒之後 宜文始到于東都識者憾正嗣子清澄乞余文勒石建  
之墓嗣余身君相知者尤久義不可詳也系以銘曰

于嗟乎死而朽者形骸不可斷滅若名一世孰文騷之柄千載享法眼之榮淺草山ノ神地  
淨以固其塋

文政十三庚寅三月二十四日

孝子石川清澄謹建

吉田勇雄識并書

恋川好町

朱(初)于度律部  
如補物卷三四卷官人

繼成名直須狂歌室と號一又四方歌垣通称比川嘉兵衛文政十二年己丑六月六日病て没去年七十  
七小石川三藏坂極楽水上芝田寺在法名似諧歌場壽辰福阿真願

紀定丸



号尚九堂通称女兵衛作名南院ナンタクカシラニ迦紫策文政三年九月六日没浅草正覚寺、茨樞寺

法号 善春尚九俊儒居士

梵儒人（和名善日世禪師）（和名善日世禪師住持下河原町寺、以族あり、老人也）

通称掃部太即号南心実書肆より文化四丁酉年三月九日没、西久保心光院在

法号 只但受業羽居士

振贈亭

猪内女名貞居通称子六侍

梅暮里谷我（本亦多）

号甚麻亭久留里藩士通称又里与凡工門 初三郎助

櫻川杜芳

岸田代

樹下石上

号市中山山砂藩士通称振奈五郎兵衛

思武

号感和亭 初曼亭 通称前野曼助或藩士也

二代喜三

姓菅原名長根若菜亭と号し初亭曆亭狂名浅黄衰或本阿弥之院七世の孫

弘化三年二月十日没也 朱（没日追善集三〇八）

竹塚康子

武州立石郡竹塚の農夫

内新好

号魚堂通称内田屋新太郎

櫻川慈心或

通称助也染亭 初号 或書鏡屋大五郎と号し岸田杜芳門人也

二代目 萬象

本森羅亭又南湖ノ稱也 初号二代目竹枝為輟又七珍萬通稱福鳥屋仁工門鋪也  
天保二年 甲午七月廿六日没 又年七十西本願寺中妙延寺在位号 釈言運信士  
七珍萬宝

萬象亭明人

可矣

伊庭氏猪子八と稱云 天叫三癸 甲午六月三日没 行年七十七 四谷大木戸理性寺在  
法名玄如院要山

寒川行町

春野明人

小枝繁

号絳山又勸齋陳人通稱露本七郎 治永村の家臣

高井康山

名伴寛字思明通稱文几工門

自惚山人

池田屋久三郎 台浅野幸右工門と改む 北水と稱云

福杏保留

棠香亭又奇南楼 紅書 元飯田町煙草者三河屋弥平次者を所煙草百首狂歌といふも其地傳ふと稱す大

祭和樽

紙の真通稱武藏屋新六

黄金屋丸

伊せ屋吉兵衛と云紙屋

全亭正直

藥店

小書ノ益あり

西来后本佛

毛受喜喜といへる人幼時飄蓬園一才法師辰州京藩臣

冥亭傳笑

本多彦藩臣通称冥亭平四郎京傳明人

東里山人 **穴心種(茶)** **トノ作平(冥)**

九陽亭又鼻山人通称細川浪次郎山東庵明人

静盧 名随言字有和一辨梅園通称比 三石工門初の綱の破損針金

嘉永元戌申年三月廿九日没 天徳寺中教受院 冥法号 高岳院円照居士

壽阿弥

俗称直志屋五郎作 山菓子屋 戲場狂言作者室田壽来が名を請て二代目劇神仙と云嘉

永元年八月廿九日没 享二年八十八石川傳通院地中昌林院葬

法名 東陽院壽阿弥陀佛曇喬和尚

鶴屋南北

神史作名妖、**屏助**南北の名に似倣者の譚コトバ宜屋南北の名跡を継いで四代あり三世后を勤王と云  
十余年文政十二己丑年十一月廿七日没 五時葬七十五才本所押上長養山春慶寺葬

法名 一心院法念日遍

瀬川如皋 **十代目**

狂言堂 **比羅後三** **台即** **奪来** **子用**

白頭丸柳悞

狂言作者濱村柳悞の楚満人門人 歌亭駒人といふ

葛葉山人正二 **旗** **下** **次男**

狂言作者初澤田金次後三代目 並木五瓶文政二己酉年七月七日没 下谷地、瑞寺不知

法號 並木舎葛葉居士

松島半二

狂言作者

宝田羊町

通称中川羊兵衛狂言作者倉屋藩

向榮博飲堂

本蝶山人又狂言作者宝田壽助と云天保七申年冬病没

死望文京役者妙は藤原著菊五郎怒ラレ上へ出奔又代目自志

代作屋大伴儒生琴堂又狂言作者丸屋普助と云又豊嶋新藏

林屋林泉 名不一家怪談名人

初杜屋正彦中頃ニ世鹿野武右門改名天保六乙未年正月剃髮後林屋正藏と旧名と渡

天保十三乙申年二月没

岩永春小

名貞高狂訓亭鶴鶴正輔と称通称新前屋長次郎或亭の門人三壁と号し後ニ世振鷺亭

又二代目楚橋人文政十一子辛春水と改

教即神 天保十三年公三郎アリ年鑑中三平又西本願寺中奴傳寺ニ突ハ法名童吉信士 春の舎春水評判ナクタ室村女ノ梅オヨシ評ニ春水後重多

出山真

名長盈字世甫竹之舎又丹前舎の号あり通名鳥出山右工門初名初由亭の門人

千代春道

橋本徳親又淳也喜泉文政八酉年病没

滝亭輝文 朱 浅草的形河岸に住セ一人ニ楚間と云ヘリ

番米舟玉粒

姓大庭庭名林信平歴亭又米舟ニ世目馬全文と改名文政十亥年五月二日没

東西庵南比

剗刺女朝倉友八

神屋蓬列

患卯

栗杖亭東海道日坂宿の人 煙草屋障子狂歌のまて白河の御行めし年々

揚春亭慶賀

江南亭唐立

忠臣常火

三子

恋川春町

玉樓紫香

宿縁亦遇梓物語 文政中刊行英泉更註蔵堂藏板

義園垣夙顔

受亭通称義園屋上三郎店後書肆涌泉堂と稱す夙顔門人

一筆庵英泉

谷手信字英泉漢齋と稱し又無名翁通称池田善次郎 嘉永元年中申年七月廿三日没年五十九

三亭春馬

大文字屋市兵衛吉原妓院狂名加洋茶浦成又八文字自突と稱し又二代目十返一九と改む

五柳亭徳升

台軒首曹嶋屋甚藏嘉永六年七月廿五日没元享二年十一月乙宗伯寺に在り

流名五柳院徳升日輝

式亭十三馬

故三馬公男俗称虎之助天保五年甲子年以來十三馬と云

山東京山

岩瀬平石百樹字致梅致華堂又方半居士一掃覽山初名利一即後剝髮涼仙原孫山庚  
勤任天保九年戊戌年六月三十日七十賀書畫會有

岳亭山

通称谷吉戲名班川太郎春信

松亭金水

名定保通称中村倅八備筆家

鳥亭馬馬

通称嘗次郎町与力山崎助右工門又孔化三丙午年三月迄松門工門とあり今不知

雪磨

梅史通云雪磨一十九十日論云一自記あり

里三川亭高田茂通称山中吾三郎墨亭月磨明人

弟福亭官守

福亭又福馬西宮新六繪草舟屋也

乾坤坊良斎

梅沢勘平男柳亭明人

笠亭仙果

姓大宅名慶重字子田轍斎又狗口山人招縁公前通称弥太郎父高橋孫右工門といひ尾張國  
愛知郡熱田野熱田大神宮神領之里止也又西浅草慶地称を継一薄祐といひ主業といひ

西宮の人、江戸、来り、若迂り、以て、治計と云、(後梅亭種考とあり)

ミウシニ、自種考トイフ、高宮監取ノ人

勢州松坂之人天保二年卯十一月廿一日没享年四十四松坂寂光山寂証寺寂持名棟亭道香

柳亭内人

柳下亭種貞

萬亭应賀

朱 服部城明伝六三年八月三十日没享年七十餘下流可年町住

平亭銀鷄

畑氏

京傳



京傳

冬醒字西屋  
政演字狂名  
法字辨  
田向院中墓誌  
区兄諱西屋  
者仕瓜田  
旅東都市  
始有指史  
今茲文化  
筆紙有年

近侍者月記後編

忠臣水滸傳 梅光製 三 治世丹全行 櫻姫歌子 四  
 福壽表紙 二 江戶 三 中角辨等提 二 江入 四  
 双蝶記 六 中務記 五 傳景奉抄七 三 中角辨等提 六  
 奇傳考 七 骨董集考 七 修入 二 春日所相 六  
 腹筋達考 一 狂馬譜 五 骨董集考本集 七 粉劇取元記 五  
 書善物古墨圖考 二 江戶中世手文加 二 重兄弟 一 燕初標 五  
 指南考 一 桂江太平記 二 百人一首初表抄 二 粉百人一首抄 二  
 浮世繪原考 一 仙傳百家系譜 五 伴和分物抄 二 結本津標本考 二  
 奇妙因臺 一 雜劇考 三 文七目十紋 一 志川夜記 一  
 重祿考 二 近世搜奇記 五 山東漫記 十 仙傳細見記 一  
 守武把 一 人心後の浮世 一 湯下司所記 一 通言熱難 一  
 小紋新考 一 小紋辨記 一 仙城四十八年 一 仙傳の真諦 一  
 仙傳 一 新造因臺 一 廊の大隈 一 忽かす記 一  
 奇事集考 一 官邸 一 松東知身抄 一 十紋裁 一 吉原大全記 二  
 青楓院考 一 只一七聖の三天 一 仙傳早考 一 任掛文庫 一  
 櫻枝編考 一 地者八景 一 志まき抄 一 總財抄 一  
 天湖中より草冊子重政文化比叢書 一 合巻ト云者ト謂花本ト唱アモノ  
 叔中種了今集之

車種種子原輯  
里見意意補板

冬の京傳有

院日災

丘人上近世資註

候多病辭仕隱

今尚存家自出

馬走無不知夫

辭仕絆与亡兄同

並書  
近世祥鏡



岩瀬百樹字鉄梅號京山岩瀬朝臣人上之遠裔也父信明勢一志之地士未江戸野大  
 林氏生享傳公前百樹及二子百樹自幼嗜文武弱出仕母山侍後多病辭仕以及鉄壁之  
 技厚業自戲自稱史之伴乞梓者歷至編年日富子兒府時鳴魚然以伴之名存大  
 方之所恥也時五十三已過上壽之年故遺壽藏自記名氏耻省亡後之勞尔

于時文政五年壬午夏二月丁有五日也

京山岩瀬百樹誕辰之醉後撰并書  
 墨水石匠症世祥鑄

實政三年庚戌秋八月

岩瀬舟之墓

岩瀬傳九工明信明  
 男傳藏有備建

式亭三馬

名春輔字久徳通稱菊池太助本町廣游戯堂晒落舟<sup>朱(一)</sup>博四季少人游戯道人戲  
 作舎常秘<sup>朱</sup>堂の教号有(一)墨川亭云三馬大人の父八犬鳥存朝大明神の祠官菊池清岐  
 守の孝腹の男子也訓別式菊池清兵衛といふ安永四年本生文政五年壬午(壬午五月六

きんば



ばらん



日没時年四十八潭川雲友陵に葬る 法号 歡喜喜樂美天居士

（墓） 祥寺 葬もてん 墓よりくちを死る身は地蔵も 尊を始 慶いん

曲亭馬琴

**新補**

京山の御宗書に小傳あり之馬琴が七兄喜傳のソレヲイハシテモカ 記事書にトシテ怒リん 意ヨリ作リシヨシ

名解字瑣吉 隆根代通称清右工頭と云 元服御所 中坂下本願寺 田刀宗伯松前彦医何と同居文政七年頃劇

秘傳皇氏と云 嘉永元年十一月六日没 享年八十一 若荷谷 深志寺に埋骨

法号 著作堂隱居喜喜喜居士

馬琴實政の初京傳明人と成り 京傳明人 大塚山人作

山鴉と戯号也

大日年 つらてたててふぶきやうりく 官政三年 文年 曾 神州前和泉尼 亦 長 坂 七 世 四十 西 辰 用 而 二 分 任 言 其 手 即 官 政 或 手 官 初 也 女 任 任 言 来 リ 也 京 傳 明 人 大 塚 山 人 作

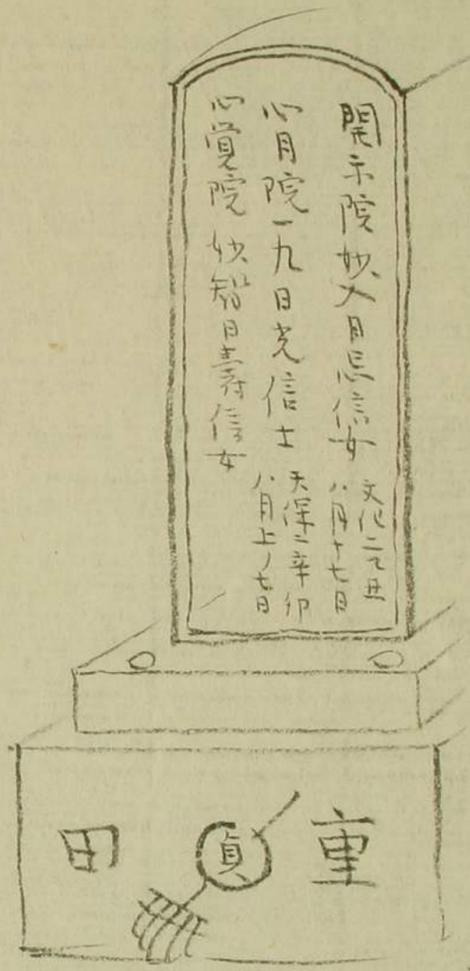
東原全羅文

**新補**

巨琴の二兄、車馬作、原久松物語、若末、自記

諱興旨 称量右工頭馬琴子と見少し 仙流の梨句を嗜む 實政十戌午年八月十一日没 享年四十九 余歳深志寺に死す 法号 深志寺 法号 深志寺 法号 深志寺

重田氏名貞一通称子七殿河之在天津二辛卯年病故其浅草土冢名善地中東陽院葬 此寺とばかりやみいともまじく香もりもついでに灰丸様ちりす返舎百九



開示院女入月信女 文化二年丑  
八月十七日  
心月院一九日光信士 天保二年卯  
八月十七日  
心覺院女知日善信女

敏廣長者終りし東陽院新築其墓其向側善立寺の右陣あり本文善就善立の王ふ

柳亭種多 (狂名柳屋成又心種俊) 末(川柳名本卯)

姓原如知久愛産軒屋新之助三子有通称高屋考四郎といふ麻下りし倉祿二百俵賜り奈提手女之甲州之士に大保十三女 宣年七月十八日行年六十 赤坂一平阿山浄土寺死 法号 芳實院殿勇倉心禪居士 あり



辞き 敬るものさなまの柳

源氏の人らうせまひも大うな秋あるとありて

我も秋三十帖をよぢうあふ

鳥亭正馬 スミ(み)ひきやあぢみのをを今ぞーる口梅口のぬきの

中村氏名英祝号讚州博別号柳栗山人持紫齋狂名野見てうぶぢんをみあね和泉屋和

助と云原大工棟保之文政五年二月二日没年八十

北本所表町午室山島晴斎 法号三泉院善壽徳正馬



鳥亭

六柳史家首客の先  
世にまじりてはまはる  
帰山人

友のひふ



敬按此は平治京子、権足家小傳及、獻作亦京子、按按ナリ、此ニ書ク、近來浮寺繪、野方、合本出版

○以三杯史家、竹園之段、字下、讀字、九文、之の、や、し、の、思、し、所  
あ、し、金、も、ま、く、原、本、の、段、は、原、平、の、林、原、也、也、故、州、之、  
原、本、生、と、里、土、の、之、又、あ、し、今、四、多、ク、之、在、好、所、の、者、深、の、お、皆、あ、る、  
と、い、ふ、也

巻尾、種、彦、の、像、正、了、の、像、と、お、後、々、志、也、筆、其、の、段、之、

明治廿三年、三月、廿、日、中、國、の、館、に、於、て

親、道、存、也、也

さら、し、朱、も、て、蛇、足、と、加、ふ、勉、め、て、其、秘、了、所、を、明、し、也

敏、再、識

